日本プロレタリア音楽家同盟
特別ニュース

P.M.発行

1932.
5.22.

第2回全国大会が迫つたぞ！

PM第二回全国大会は、六月中旬に持たれる。準備員として、福田・山本・栗が挙がつたが、栗病気のため、早速河野が代つた。

昨年七月の大会に於て、我々は、PMの、工場・農村を基礎とする再組織を決議し、或程度之を実践の上に生かして来た。創作活動にも、演奏活動にも、相当の進歩と強化の跡を見る事が出来る。併し、我々には、まだく多くの弱点と欠陥を克服し切れずに来た。[illegible]と言ふ如き、情勢の急迫から、我々に課せられた任務は刻々重さを加へる。この大会で、吾々は、過去一年間の活動の、厳密な批判、検討の上に立ち、その成果の収穫としての欠陥を通じて、今年度のプランを、具体的に、設定せねばならぬ。

コップに対する兇暴なる弾圧に引続き、左翼各団体の大会は、続て官憲の弾圧によつて不当にも解散された。かれらは、かゝる不当な弾圧に加へて、野卑なデマを流布し、吾々の運動を非合法に追ひ込まうと、懸命になつてゐる。之をハネとばすには、常に言ふ如く我々の大衆化、それを通じての、大衆の圧力以外は無い。『どうせ解散だ』などと言ふ、日和見主義は、大会準備に必要ない。大会迄の一ヶ月間を、PM拡大強化のために、白熱的に斗ひ抜け！

委員会では、今迄の所、大体報告は、左の如くする事に、まとまつて居る。

★一般報告

★副報告

組織活動に関する報告

教育活動に関する報告

出版活動に関する報告

音楽新聞に関する報告

創作・演奏活動に関する報告

（作曲、文芸、演奏）

（以上本部）

★支部活動報告

議案として、目下挙げられて居るものは、

★音楽方法の発展

★組織活動の強化（特に地区組織について）

★国際的連帯の問題

★機関構成

★ファシズム、社会ファシズム音楽運動に対する斗争

★帝国主義戦争反対のための斗争

其の他、各専門部、各班で討議にする問題

白熱的に活動を強化して革命競争を斗ひ抜け

コップに依つて、四月十六日を期し、八月一日を目ざして、文化教育活動の全領域に亘る、各文化団体間の、革命競争が提起された。内容左の如し。

一、新同盟員獲得（数及増加率、並びに労働者と其の他との比率）

二、サークルの拡大（サークル数及び総員数の増加率、経営サークルと其他との比率、従業員二〇〇人以上の大工場とその他との比率、サークルの[illegible]）

三、出版物の発行部数及配布網拡大（発行部数増加率、紙代回収率、同盟出版物のみならず、特に同盟活動における大衆新聞・出版物の、読者獲得数）

四、各種刊行物通信員（増加率、並びに通信記事回数、労働者と其他との比率）

五、プロレタリアートの各種カンパへの同盟員、並びにサークル員の動員数

六、同盟費納入率、

七、同盟犠牲者救援活動

八、コップ五十万基金募集応募率、（全[illegible]と同盟員、並びにサークル員との比率）

九、中央協議会に対する各同盟の報告の正確さ、並びに敏速さ、

★第一段階をメーデー迄とする。第二段階以降は各月末を以て、締くゝりとする。

各段階（第二、三、四）の報告期日を翌月五日とする。

白テロ横行、物価騰貴、正に戦時的情勢だ！ファシズムの横行だ！

奴等の出る唯一の道は？　プロレタリアートに対する一層の積極的攻撃だ！

最も正しく且つ、有効に、この敵の攻撃に対抗するには、大工場、大企業に於ける、我が陣営の組織的キソの強化、（それを通じての組織の全国的確化）以外にはないぞ！三月提唱され、大弾圧を蹴つて、最近、漸く各同盟の具体的参加を見た革命競争は、刻々差迫せる客観的状勢に応じて、刻々、その意味の重大さを加へる。吾々は今自分達の陣営に、特にその組織活動に鋭い自己批判を加へ、他同盟の成長のテンポと、[illegible]、八一反戦デーのゴールを目指して、我等のプランを設定し、その達成に向つて突撃せねばならぬ。大工場、重要工場を基礎とする、

実際的組織的活動の強化！[illegible]

[illegible]ある。この事を[illegible]

尚、出版活動、宣伝技術部の[illegible]

創作部内の創作[illegible]設定）等々の[illegible]

が為されねばならぬ。最後に[illegible]活動の中に[illegible]

先づ、[illegible]努力すべきだ。[illegible]

基いてする[illegible]

革命競争の綱目一つ[illegible]

各部各班は[illegible]

科学的に立て、二十七日迄に[illegible]に提出されたし。

★[illegible]

一、研究プラン・創作プランの設定及遂行

二、組織活動及移動活動への動員率、

三、同盟員獲得率、　四、同盟費納入率、

五、研究会及練習への出席率、

六、基金応募率。